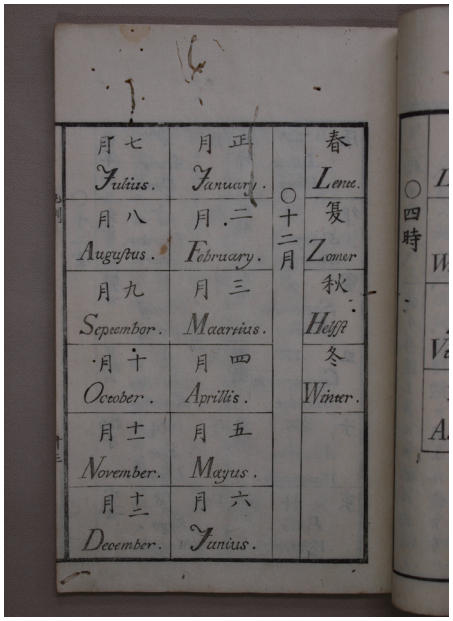
オランダ語学習



＊佐藤家文書 和漢133「訳鍵 凡例・附録」

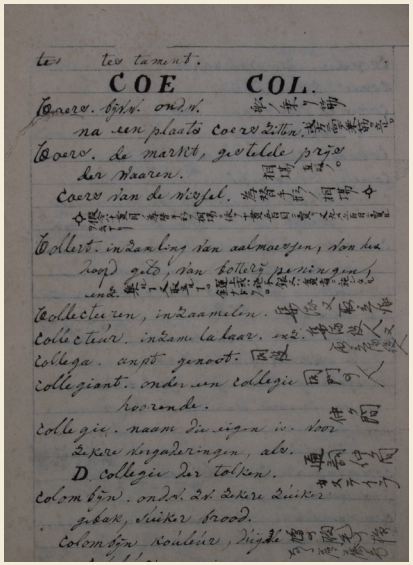
解　説

左の写真は「訳鍵（やくけん） 凡例・附録」です。「訳鍵」は稲村三伯の著した蘭和辞典「ハルマ和解」の中から，弟子の藤林普山が2万7千語を選び改良したものです。1810（文化7）年に「乾」・「坤」2巻と「凡例・附録」の全3巻として刊行され，便利な蘭和辞典として多くの蘭学者に用いられました。

この内「凡例・附録」は簡単なオランダ語の入門書で，アルファベットの発音や書き方に始まり，数字，季節，月，曜日など基礎的な用語，さらに簡単な文法，読解例などが書かれています。また医学関係の文章を用いた例文では漢文の返り点を使って訳が示されています。そのほか，オランダ語を解読する際の心得なども書かれています。後にこの「 凡例・附録」は「蘭学逕（けい）」として独立しました。

＊右の写真は蘭和辞典「ドゥーフ・ハルマ」の大村益次郎自筆とされる筆写本です（大村益次郎文書76）。「ドゥーフ・ハルマ」は長崎でオランダ商館長ドゥーフと通詞らによって編集された辞典で，稲村三白の「ハルマ和解」が「江戸ハルマ」と称されたのに対して「長崎ハルマ」と呼ばれました。大村は兵書の翻訳に積極的に取り組み，1864（元治元）年にオランダの戦術書を翻訳するなどしています。

＊藤林普山の「蘭学逕」は神本正律文書375（8の1）に残されています。



山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る